

☆いちばん星通信

2020年夏



いちばん☆大阪弁トーク

「おたがいコロナで自粛生活でんなあ」

「ちゃんとマスクして手洗いうがいソーシャルディスタンスとってますか」「もちろんでっせ。怖いもん」

「怖いのはコロナだけじゃない。与党がこわいこといいただきました」

「敵基地攻撃能力。敵が攻めてこないように敵の基地を先制攻撃できる武力を持つこととでんな、どうもどっかで聞いたきがしますが」

「冷戦時代にさかんに言われた抑止力です。最近自衛隊は抑止力を持つ存在になるというています。抑止力は相手が核武装しているようだったらこっちはそれ以上に武装する。相手が核10個持ってそうだったらこっちは20個。20個なら30個と際限なく武装する。そうやって地球を何回もこわせる核兵器がつみあがった。敵基地攻撃能力もおなじことです。相手が核もってたらこっちも核もって先制攻撃というはなしですから」「先制攻撃って国際法違反でしょう」「そうですね、怖い話です。もう一つ怖いのは緊急事態条項を憲法に盛り込もう言うはなしです」

「緊急事態宣言のことですか」

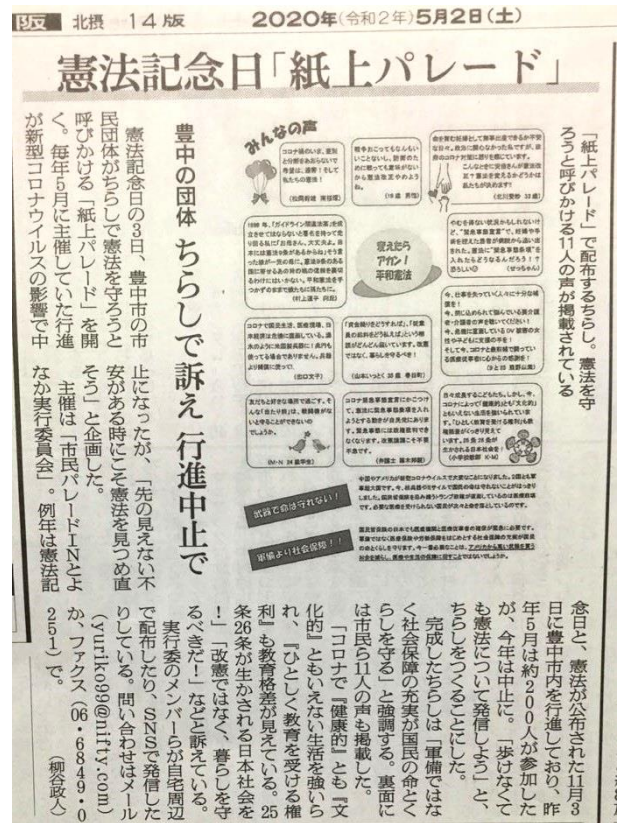
「よく間違われますが別物です。緊急事態宣言は国会が決めた法律に基づいて発せられるものです。罰則もありません。でも日本じや緊急事態宣言にみな従います。」「ですな」「ところが名前が似ているのでこの際緊急事態条項を作っちゃえと首相が言っているわけです。緊急事態条項では宣言を出すのに国会の承認は事後でもいいし、内閣が法律と同じ力を持つ政令をだします。国民の権利をダイレクトに制限します。しばしば独裁に使われる戒厳令と同じですな」

「おおこわ、こわいのはコロナだけ違いまんな。どうも変な方向にいかんようにみはらなあきませんな」

「しっかり、見張って。コロナ対策に必要なのは医療公衆衛生の拡充と経済的な補償ですと声あげなければいけませんね」

(作・熊野)

いろいろな方法で声をあげつづけよう！



恒例の5月3日(憲法記念日)のピースパレードはコロナのために中止になりましたが、市民有志で「紙上パレード」を行い、朝日新聞にも載りました！

幻の名作を再び！

映画「ひろしま」市民上映会&講演会

75年前のあの日を忘れないために。平和の大切さ、核兵器廃絶への思いを新たにするために・・・7月25日(土)、市民による自主上映会・講演会を開き、120人の方にご参加いただきました。次ページのレポートと感想をご覧ください。

「ひろしま」市民上映会 レポート

～坂本洋さんのブログから～

企画したのは「九条の会・豊中いちばん星」を中心とする市民の有志たち・・・政党や組織ではなく普通の市民の運動体として持続する志を強く持った方々だ。折しもコロナ禍で、公共施設のすてっぷホールも三密をさけるため定数を半分以下に抑え、感染予防対策も厳しく求められる中で、雨が断続的に強く降る土曜日、重く厳しい原爆がテーマの映画会・・・

心躍るエンタメではない企画にも関わらず、前売りで予約で完売。当日はキャンセル待ちの状態・・・これが豊中の市民力だ。



1945年8月6日、原爆投下の当日に小学生だった子どもたちの証言を集めた「原爆の子」を元に、新藤兼人監督が作った「原爆の子」という

映画が既に高い評価を受けていたが・・・当事者の子どもたちには、「被ばくのシーンが少なすぎる。私たちの体験はあんなものではない」との強い違和感が残った。朝鮮戦争が勃発し、特需景気に沸いていた日本だが、トルーマン大統領が原爆の使用に言及・・・強い危機感を抱いた被ばく体験の子どもたちと、「教え子を二度と戦場に送るな！」の思いを強めた教師たちが全国的にカンパを募り、もう一つの原爆の映画「ひろしま」を制作した。



当事者を始め8万人以上がエキストラとして出演し、郊外に大規模なセットを造ってみんなでがれきも持ち寄った。当時既に大スターだった月丘夢路さんも会社の反対を押し切ってノ

ーギャラで出演してくれた。この映画をぜひ見て欲しい！

しかし上映直前になって、GHQと政府にそんたくした配給会社から内容変更を求められ、映画館での上映は出来なくなってしまった。

1955年ベリン国際映画祭「芸術映画賞」受賞作品

えいが映画「ひろしま」市民上映会 & 講演会

「度々お蔵入りした幻の名作!!」

上映作品: 上原謙監督 原田四郎

上映日: 2020年7月25日(土)

会場: すてっぷホール (よなひ市民青年児童福祉センター内) 広島県中野区

上映①: 14:00-15:45 料金: ¥800/シニア ¥500

上映②: 17:30-19:15

～Slowly～

監督: 新藤兼人

製作: 新藤兼人

原簿: 新藤兼人

脚本: 新藤兼人

音楽: 伊藤野朗

出演: 月丘夢路

NHKディレクター 宮脇 壮行さん

WEB申込はこちら

7月25日(土) すてっぷホール

開場: 13:30-

上映①: 14:00-15:45

講演①: 16:00-17:00

上映②: 17:30-19:15

講演②: 19:30-20:30

すてっぷ視聴室にて (13:30～20:30)

それでもこの幻の映画は、小中学校での自主上映を重ねながら、静かな運動として現在に受け継がれているという。

NHK ディレクターの宮脇壮行さんはロスジェネ世代・・・もちろん戦争を知らない世代ではありながらこの映画に興味を持ち、テレビで取り上げる企画書を書くがボツボツで10年が経ってしまった。ようやく昨年に企画が通り、ETVで放映すると思いがけない多くの視聴があり、あのオリバーストーン監督もメッセージを寄せてくれた。



戦争を、被爆を体験した方々は次々と亡くなりやがていなくなる。その体験を我々以降の世代に伝えるためには何が必要か？

宮脇さんは体験者が残した映画「ひろしま」を現在の

の多くの人々に観てもらおう試みが必要と思い、上映会に参加し、youtubeで短い動画にまとめて配信し始めた。(「ひろしま ETV 特集」で検索してください)

大きな反響を呼び、この種の動画としては異例の100万回に迫る再生につながった。背景には、トランプ大統領登場以来、世界で戦争や核兵器に対する危機感が増大している状況がある。「戦争は絶対にしてはならない！」

別室では企画展示として、広島の高校生が戦争体験者の元を訪れ、話を聞きながら卒業記念の絵を描くというスタイルで描かれた作品のパネル展示も行われた。

昼夜二回の上映と宮脇さんの講演会は、お陰様で満員の盛況。いちばん星のメンバーも、若いディレクターの勇氣ある試みに大きな期待を寄せていた・・・ほんとそうだよね (#~#)

参加者の感想より

今回、50人以上の方がアンケート用紙に感想をお書きくださいました。平和への思いのこもったコメントの一部をご紹介します。

今、世界に核兵器がある以上、あの惨状はいつ繰り返されるかわからない。
何としても核兵器廃絶を！

コロナ禍でどうしようかと迷ったが、見に来て本当によかった。一人一人の苦しみがクローズアップされ、あれが現実だったんだなと思った。もっと若い人が沢山来ていたらよかった。

核兵器廃絶の思いを強くなりました。禁止条約批准のための運動をしていきたい。

高校生の絵も、辛いものではあったけど、8月6日の惨状がとても真に迫ってくるもので素晴らしい展示だった。

両親が広島出身の私には、標準語で語られる映画に違和感がありました。素晴らしい映画なのに、どうしてもそこが気になって..

どんなに苦しかったことでしょう。どんなにつらかったことでしょう。戦争は絶対にいけません。平和憲法厳守。

子どもの頃から、親が原爆を落としたアメリカのことを悪く言わないのが不思議でした。アメリカを恨まないように多くの情報が隠されてきたことを知りましたが、この映画の存在は驚きでした。

大変貴重な映画を観て感動しました。未来をたたれるのは子どもたちと若者。今の世界も昔も同じです。戦争は起こしてはならない。もっともっと多くの人に観てほしいです。

被災者に目を向けず、復興に向かおうとする状況が、フクシマ3.11と重なりました。なんと愚かなことを繰り返しているのかと痛感します。

NHK の中にもこんなに若くて、言うべきこと知らすべきことを広めている人がいることに希望を持ちました。

偶然チラシをとってこの映画をみる事ができてとても良かった。戦後75年、私たちが受け継いでいかないといけない。

実体験された方々が高齢になられ、核の恐ろしさを伝えることが難しくなる中、これからも伝え続けられるすばらしい映画でした。

カメラワーク、人物描写、ドラマ性、ドキュメンタリー性も優れた映画。映画は大きな画面で共有して観ることの意義を改めて感じました。

ラストシーンに感動した。日本中、世界中でこの映画の上映を！

日本政府は唯一の被爆国でありながら核兵器禁止条約に背を向ける態度は改めてほしい。世界の人々と連帯しよう。

教職員組合がお金を出して作り上げたことに驚きました。とにかくそのエネルギーにただ驚きと感動です。科学者の意見を聞こうとしない軍部や政府の姿は今も変わらないと感じました。

最後に多くの市民が立ち上がるところが感動的。神戸でも広めます。

今でも世界では内戦が続いている。殺し合いからは何も生まれない。この映画がもっと世に出て、戦争について原爆について考えるきっかけになってほしい。

映画もお話もよかった。日教組の原点は「教え子をふたたび戦場に送るな」。この精神が映画作りに協力した一因だと思う。

若いディレクターの宮脇さん、ありがとうございました。NHK の上部は問題ありそうですが、制作現場にはすばらしい方が多いと、いろんな番組からも感じています。

原爆時の映像、涙があふれてあふれて。なんという世界になってしまったのかと耐えられなかった。実相に触れて被爆者の苦しみを思った。

最後の群衆のシーンが、市民のエキストラによる構成とのこと、感動です。以降70年弱、この映画を作った教組、教育の今を考えると暗い気持ちになります。

<スタッフより> この催しを企画しはじめたのは今年1月。オリンピックで日本中が浮かれている夏にこそこのシリアスな映画を上映しよう、ということで7月25日(土)に決定。その後、オリンピックが去りコロナがやってくるというまさかの展開となりましたが、何とか無事開催できてホッとしています。それにしても、座席数が半減し、当日の感染防止対策にも四苦八苦。こんなに緊張して臨んだ催しは初めてでした。乗り切ることができたのは皆さまのご協力おかげです。お疲れさまでした&ありがとうございました！(筒井)

子ども達に渡したくない育鵬社の歴史・公民教科書

今、来年から中学校で使われる教科書が決められています。5年前は、大阪府で残念ながら大阪市をはじめ、いくつかの市で育鵬社の教科書が採択されました。育鵬社の教科書とは、どんな教科書なのでしょうか。

歴史教科書は、日本の歴史を天皇の統治の歴史として記述し、神話を載せ、日本の侵略戦争・植民地支配を正当化し、加害の記述がほとんどありません。「特攻隊」は美化され、民衆の生活はほとんど記述がなく民衆が、歴史を作り出した主人公という視点もありません。歴史を政治の支配者の交代としか捉えていない教科書です。公民は、日本国憲法より大日本帝国憲法を大きく扱い、基本的人権の説明が弱く、国民主権の説明より天皇の役割の説明ばかり。1ページに天皇の写真が4枚もあり、平和主義より、自衛隊の説明が多く、沖縄米軍基地の重要性を強調するというようなひどい教科書です。

前回の2015年の中学校教科書採択時に大阪市では、フジ住宅が、育鵬社の依頼を受けて「育鵬社を採択してください」という市民アンケートの社員動員をおこない、大阪市教育委員会は「市民アンケートの要望に答えて」と、育鵬社歴史・公民教科書を採択しました。今回は、市民運動の頑張りで、育鵬社の採択は全国で激減しています。前回育鵬社を採択した大阪市、東大阪市でも、今年には育鵬社を採択できませんでした。全国での育鵬社不採択の流れは、今後の教科書採択を変えるものになると思います。(福井)

講演会のご紹介です！

「新型コロナ時代」とこれからのまちづくり

講師 中山徹先生 (奈良女子大学教授 大阪自治体問題研究所理事長 専門は都市計画学 豊中市在住)

日時 9月12日(土) 午後1時半(開場2時)

場所 くらしかん イベントホール

大阪の医療体制、教育の実情、社会福祉の弱点はどこにあり、コロナの時代それらをどう創り変える必要があるのか？まちづくり研究の第一人者である中山徹先生をお招きし語っていただきます。

資料代 500円

主催 豊中いいね！草の根市民応援団

(会場は、定員の3分の1に制限されていますので事前にお申し込みを) 松岡 090-4033-1376

メール matuoka@mtb.biglobe.ne.jp

☆カンパの送金先☆

郵便貯金 口座番号 00980-4-116244

加入者名：九条の会・豊中いちばん星

・・・戦後75年に思う・・・

「権力に対する人間の闘いとは忘却に対する記憶の闘いにほかならない」(ミラン・クンデラ)

雑誌に紹介されていた言葉です。市民が戦争の歴史を伝え続ける必要を改めて思いました。



それ程酷い戦火に見舞われた訳ではないが、夜な夜なB29の爆音に怯えた戦中と、終戦になった途端「これからの日本の平和を創るのは君たちだ」と子どもの力ではどうにもならない事を押し付けられた時代を過ごした。平和は一人一人が創るものと気がついたのは大人になってから。果たして平和は創られたか、我が身の衰えと同年輩の訃報に接することの多い昨今強く思う。(安達)

広島の高校生が、被爆された方から聞き取って絵にした「広島原爆」を見て、若い人が核や戦争の恐ろしさを絵で語り継ごうという熱意にとても感動しました。戦争を体験していない戦後生まれの私が、子や孫たちの世代にどう平和を語り継いでいけるか。平均寿命まであと数十年、身近で少しでもできることをやっていきたい。(M.U)

先の大戦の生きて帰ってきた方々の従軍回顧記録集が何冊か手元にあります。もうその方々も殆どが亡くなってしまわれたでしょう。中国で朝鮮でインドシナでフィリピンでインドネシアで、沖縄で、、、よくこんな無謀な戦争をしたもんだと思います。果てしない加害と被害とを経験したのに、それがまだ燃り続け、悪くすればまた発火するかもしれない危うさをはらんでいることを憂います。人は何故学ばないのか、学べないのかと。今もあちこちで紛争が起こり、破壊され、難民は増え続け、自然災害、廃棄物、貧困そして感染症などなど、何一つ制御できていない状況が世界を覆って混沌としています。自分の中も混沌としています。でも、少しずつでも自分のできることをしていこうと、ささやかすぎる思いを抱いています。(鶴川)

明るく元気に怒りたい人、いちばん星へ！

九条の会・豊中いちばん星 連絡先

FAX: 06-6849-0251 Eメール: yuriko99@nifty.com

〒560-0021 大阪府豊中市本町 1-1-1

市民活動情報サロン気付

URL: <http://9jo-ichibanboshi.jimdo.com/>